

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鵜飼敦之

「二松から飛翔へ」～ 一期一会 ～

1 学期終業式より

今日で1学期が終わります。皆さんにとって、この1学期はどのような時間だったでしょうか。1年生は二松での生活リズムは作れましたか？ 勉強、部活動、学校行事、それぞれが自分なりに努力を重ね、多くの成長があったことと思います。

さて、この夏、日本中を熱くしている話題があります。それはサッカーワールドカップです。明後日、20日に決勝戦を迎えます。残念ながら日本代表はその舞台に立つことはできませんでしたが、大会前から「ワールドカップ優勝」という大きな目標を掲げ、「最高の景色を」という合言葉のもと、世界の強豪国に挑みました。

いわゆる「ドーハの悲劇」をリアルタイムで見ていた世代にとって世界の強豪と互角に戦う日本代表の姿には、隔世の感がありました。それでも「優勝なんて無理だ」と言う人もいたでしょう。しかし、日本代表は最初から限界を決めませんでした。だからこそ、多くの人の心を動かし、日本中が一つになって応援する国民的な盛り上がりにつながったのだと思います。

私は、この姿勢こそ皆さんに学んでほしいと思っています。

特に3年生。皆さんの学年目標も「挑戦」です。これから受験という人生の大きな勝負が始まります。第一志望という高い目標に挑む前から、自分で限界を決めてしまっはいけません。「どうせ無理だろう。」「この学校なら安全だから。」そう考えるのではなく、自分が本当に行きたい大学、本当に実現したい夢に向かって挑戦してください。

そして1・2年生。体育大会で皆さんが掲げたスローガンは「限界突破」でした。当日会場でも伝えましたが、その言葉を体育大会だけで終わらせないでください。この夏休みは、学力も、部活動も、人間としても、自分の限界を一步でも超える夏にしてください。40日余りの過ごし方で、人は驚くほど変わります。9月、ひと回りもふた回りも成長した皆さんと再会できることを、私は今から楽しみにしています。

一方で、世界の出来事から、私たちが改めて考えなければならないこともありました。アメリカによるイランへの軍事攻撃をきっかけに、中東情勢は一気に緊張しました。ホルムズ海峡の封鎖により原油価格や輸送コストが上昇し、日本でもガソリン代や食料品など、さまざまな物価の高騰に拍車がかかりました。残念ながら今も解決には至っていません。

「海外で起きた出来事だから、自分には関係ない。」そうではありません。世界はつながっています。遠い国で起きた出来事が、日本の経済や私たちの生活に直接影響を及ぼします。高校生の皆さんにも、ニュースを見て、「なぜ物価が上がるのだろう」「なぜ世界情勢が自分たちの生活につながるのだろう」と考える習慣を持ってほしいと思います。社会を見る力は、これからの時代を生きる皆さんに欠かせない力です。

また、日本の各地で大きな地震が発生しました。海外ではベネズエラの地震でも多くの尊い命が失われました。日本は災害の多い国です。災害は「いつか来る」のではなく、「いつ来てもおかしくない」という意識を持つことが大切です。家庭で避難場所を確認すること、非常持ち出し袋を準備すること、家族と



の連絡方法を話し合っておくこと。そうした日頃の備えが、自分や家族の命を守ることにつながります。夏休み明けの 9 月 1 日には避難訓練が予定されています。この機会に、ぜひ防災について家族と話し合ってください。

さて、現在、野球部は優勝・甲子園出場を目指して熱戦を続けています。明日もベスト 8 をかけた試合が予定されており、選手たちは学校の代表として戦っています。その姿は私たち全員に勇気と元気を与えてくれています。ぜひ皆さんも、球場へ足を運び、仲間を応援してください。スタンドが二松学舎の応援でいっぱいになり、みんなで校歌を歌う光景ほど素晴らしいものはありません。



今後、準決勝・決勝戦では全校応援体制で臨み、学校全体が一つになって選手たちを後押しし、甲子園への切符、そして日本サッカーと同じようにその先の優勝という「最高の景色」を一緒に目指しましょう。

それでは、健康と安全に十分気を付け、有意義な夏休みを過ごしてください。